Members

Associate Professor	伊藤香織
Assistant Professor	丹羽由佳理

M2	M1	B4
大矢遼太	飯田遼平	石川杏奈
川上萩子	小田健人	栗田恵
高橋真有	木崎美帆	酒井祥樹
竹中翔	草谷悠介	鈴木俊
西村尚宏	栗田純吾	鈴木宗一郎
平野淳也	神田夏子	宋歆月
三縞宏徳	權田貴之	園部伊世
矢萩智	西山貴史	武田遼介
吉田恵子		田中椁資
渡邊諒		土谷知世
		中村健人
		早川貴光
		峯田もえみ
		柳原仁
		吉村元宏

fab C.　vol.9
2015年1月1日　発行

□編集
鈴木宗一郎　宋歆月

□発行
伊藤香織都市計画研究室
東京理科大学理工学部建築学科
〒278-8510
千葉県野田市山崎2641
TEL　04-7123-4785（研究室直通）
URL　http://www.rs.noda.tus.ac.jp/~i-lab/

□印刷・製本
祥美印刷株式会社

fab C. vol.9

The comic

contents

03 Prize-winning Design for Fukui City

08 Laboratory Activities

04 UMN-TUS workshop

09 Publication

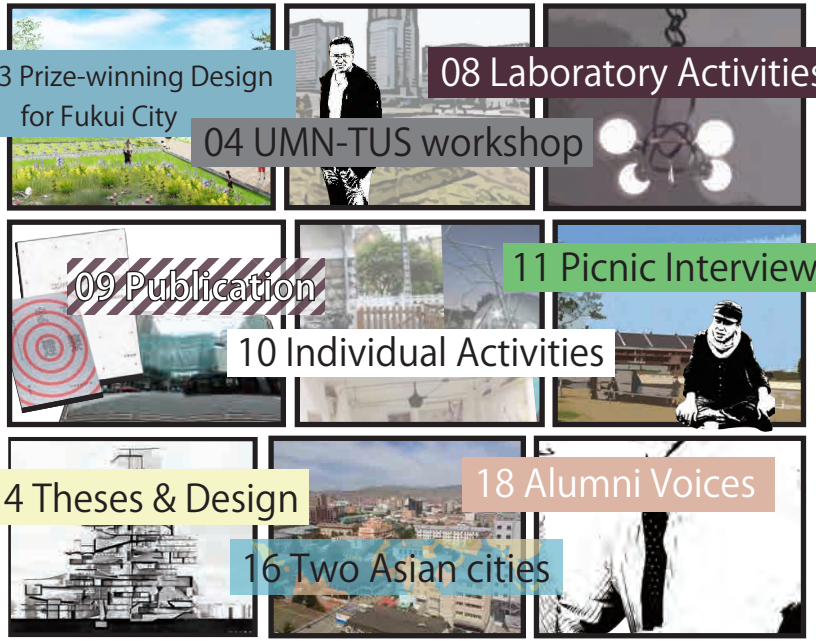
11 Picnic Interview

10 Individual Activities

14 Theses & Design

18 Alumni Voices

16 Two Asian cities



fab C. は伊藤香織研究室（東京理科大学理工学部建築学科）が発行するフリーペーパーです。
研究室の活動を中心に、都市の研究とデザインに関する情報やメッセージを発信する媒体を目指しています。

Prize-winning Design for Fukui City

草谷悠介
小田健人
吉田恵子
竹中翔
高橋貞有
川上萩子
大矢遼太
堀口裕
上原慧史
荒井隆太郎
中畑昌之
伊藤香織

福井市中心市街地の「福井城址周辺地区」を
対象とした第16回まちの活性化・都市デザイン競技
（まちづくり月間全国的行事実行委員会
・財団法人都市づくりパブリックセンター主催）

伊藤研究室の作品「城址公園都市」がまちづくり月間全国的行事実行委員会会長賞(優秀賞)を受賞しました。

対象地区全体を「城址公園」に見立て、城址の同心環構造を活かしながら、多様な「緑」と「公共的な空間」を配しつなげていくことで、公園の中で人々が歴史に触れ、憩い住まい、創り、学び、働くような「城址公園都市」を提案しました。

マスタープラン

審査員からは、都市を分析する中で課題やデザインの手掛かりを見出し、公園を軸に新しい各種の提案に結びつけている点、城内をオープンスペースとし多様な市民的活動の場とした点などに対して評価を頂きました。

UMN-TUS
urban design workshop

今年もミネソタ大学からブレイン・ブラウネル先生と 14 名の学生がやってきて、伊藤研究室と合同ワークショップが行われました。参加学生は総勢 35 名。ミネソタ大学の学生は年齢層もバラバラで、アメリカ人だけでなく中国・韓国・ベトナム等の留学生も多く、国際色豊かな構成となりました。

今年のテーマは「PLATFORM FOR INNOVATION」。
2020 年東京オリンピックのパヴィリオンをデザインします。湾岸というサイトや競技場の巨大なスケールに対して、小さなスケールの一時的な構築物によって、施設と人、都市とマテリアルの接点をデザインする課題です。
それぞれ異なる文化や背景を持つメンバー同士が話し合いながら、現地調査や作業を進めました。最終講評会では、建築家の今村創平先生にも講評していただきました。

Blaine Brownell

建築家、ミネソタ大学建築学部助教授
新素材のデザイン研究、及び、特に技術・サステイナビリティ・日本の建築に着目した設計活動をしている。主著に「Transmaterial 1~3」など。

Members of all groups

Group1 「bamboo therapy」
飯田、石川、柳原、Liawei Li、Bridget Geissler

Group2 「借景 borrowed scenery」
小田、宋、早川、Xin Chang、Tongkou Her

Group3 「Tatsumi Pavilion」
栗田純吾、鈴木俊、峯田、Miranda Moen、Li Ren

Group4 「Ariake leaf pavilion」
神田、栗田恵、中村、Ronson Chan、Josiah Song

Group5 「Floating Pavillion」
権田、田中、鈴木宗一郎、Thomas Kallenbach、Yunjing Su

Group6 「こかげ KOKAGE」
西山、武田、土谷、Katie Mueller、Yiding Weng

Group7 「HORIZON HARBOR」
木崎、園部、酒井、Jiawei Li、Luke Murphy

Floating Pavillion

Pavillion

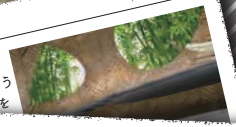
お台場海浜公園前の海上に浮かぶパビリオンを提案しました。東京オリンピック開催にあたり国内外から訪れる多くの人々を、この日本の伝統と現代技術を融合させた建築空間によって迎え入れます。

Tatsumi Pavilion

Public facility

oo therapy

Pavillion



こかげ KOKAGE

Park

第三台場は、他国の日本への侵入を防ぐため徳川幕府により建設されました。2020年オリンピックでは、第三台場が今度は来日者に対して歓迎の気持ちを伝える場所となるよう、過去と現在をつなぐこの場所に新たな癒しの空間を設計しました。

HORIZON HARBOR

harbor,rest area

お台場周辺の3つの駅はいずれも小さく、オリンピックの観客を収容できる規模ではありません。そこで新たに港／休憩所を設計しました。水上バスや屋形船をもうひとつの主要交通手段とし、交通や人数分布の分散を図ります。

How was the workshop?

ワークショップを通じて
ミネソタ大学の学生と日本の学生とは
設計のスタイルが異なると感じました。
日本の学生は理論的に考え設計を進めて
いくのに対して、ミネソタの学生は
実践的に設計を進めていくので
作業スピードが圧倒的に早かったです。
そのため徹夜などは絶対にしないし、生活
の質が保たれていました。言語の違いだけ
ではなく、文化の違いも大きく感じる事
ができたワークショップでした。

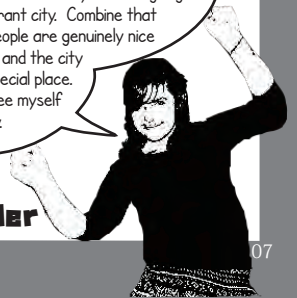
4th grade
Shun Suzuki

what`s your favorite city in Japan?

My favorite city in Japan is Osaka.
It is a modern city with full of energy.
For me, it is a kind of young city that
matches my favors. Also I like the buildings
and how they have been layout in there.
By the way, I have been in Dotonbori
and the food is awesome in there.
I should say it is the place that
everyone could enjoy
themselves in there.

Liawei Li

My favorite city in Japan is Tokyo.
I love the number of people there.
The city is always active, filled with people,
and there are always events going on.
It is such a vibrant city. Combine that
with the fact that the people are genuinely nice
and that crime is very low and the city
is safe makes it a very special place.
It is a city that I could see myself
living in someday.



Bridget Geissler

Laboratory Activities

まちの活性化・都市デザイン競技[飯田]

伊藤研究室の有志＋中畑昌之さんで「まちの活性化・都市デザイン競技」に挑戦しています。
今年度の対象地は、リニア中央新幹線開通を見据えた長野県飯田市です。

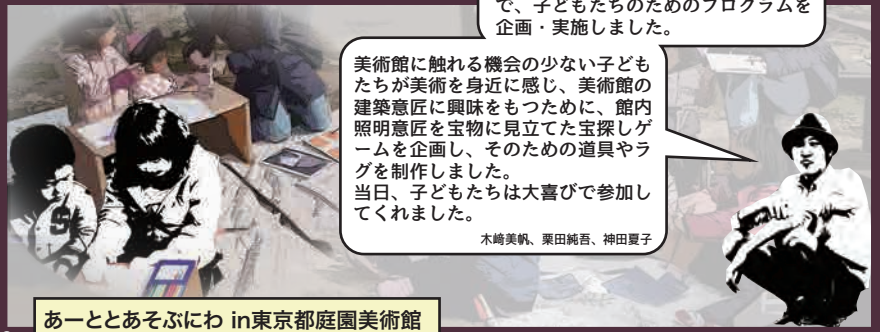
敷地は、JR 飯田駅から市民の心の拠り所「りんご並木」までを含む地区。中心市街地の現地調査を行い、地域の未来について様々なアイディアを議論しています。

あーととあそぶにわ in東京都庭園美術館

改修工事後再オープンした庭園美術館で、子どもたちのためのプログラムを企画・実施しました。

美術館に触れる機会の少ない子どもたちが美術を身近に感じ、美術館の建築意匠に興味をもつために、館内照明意匠を宝物に見立てた宝探しゲームを企画し、そのための道具やラグを制作しました。
当日、子どもたちは大喜びで参加してくれました。

木﨑美帆、栗田純吾、神田夏子



Publication

コンパクト建築設計資料集成［都市再生］（日本建築学会（編）、丸善出版、2014年3月刊行）

資料集成の最新刊。本書は、世界各地の都市の新たな動きを捉え、建築と都市空間を横断する図面が豊富に掲載された意欲作です。伊藤研究室は「出来事と一時的空間」「地域再生」「創造都市」の編集・執筆を担当。学生も5学年に渡って、事例収集、実測調査、図面起こしなどの作業をしました。「岸和田だんじり祭り」と「ロワイヤル・ド・リュクス ロンドン公演」の見開きは見所のひとつ。

兼森毅、田中理恵、石橋理志、小野田龍、川上那華、古川正敏、上原慧史、堀口裕（以上、OB/OG）、高橋真有、矢萩智、吉田恵子、小田健人、草谷悠介

まち建築：まちを生かす36のモノづくりコトづくり（日本建築学会(編)、彰国社、2014年4月刊行）

伊藤准教授が主査となって日本建築学会建築教育委員会市民協働のデザインWGで取りまとめました。建築の職能が変容してきている現在、まちに開かれ、建築のライフサイクルに渡る仕事にはどのような可能性があるのか？その幅を提示し、学びを促進します。
伊藤研究室の学生が図版作成等の協力をしました。

堀口裕、宮本沙生（以上、OB/OG）、神田夏子

シビックプライド研究会

2006年に活動を始め、2013年には100回目を迎えたシビックプライド研究会は、伊藤研究室の学生やOGも参加しながら、現在も継続中です。2008年に出版し増刷を重ねて9000部に至った『シビックプライド：都市のコミュニケーションをデザインする』の続編が、今年出版される予定です。どうぞお楽しみに。

小島桃子、片田江由佳（以上、OG）
川上萩子、吉田恵子、渡邊諒、石川杏奈、中村健人

Individual Activities

小田健人　コンペティション

第５回エイブル主催の空間デザインコンペティションで最終審査まで残った作品「女性のためのクリエイティブライフ部屋」です。

西山貴史　ミズベリング

水辺の新しい活用の可能性を創造していくプロジェクトで、水辺に興味を持つ人が集い、ディスカッションやグループワークを行いました。水辺とまちが一体となった美しい景観や賑わいを生むような未来の水辺空間のアイデアを共有しました。

飯田遼平　フランス旅行

昨年の７月にフランスに２週間滞在し、アヴィニョン、ニームなどの南仏地方の都市、ミディピレネーの村落、そしてパリを訪れました。その中で修士課程で研究している自転車走行空間についてフランスの事例を多く知る事ができました。

2014 年度日本建築学会大会（近畿）

隅田川周辺の街並みと印象の研究：水上バスからの景観分析を通して
栗田純吾、西山貴史、飯田遼平、伊藤香織、丹羽由佳理

東京 23 区内の公立小学校の廃校利活用状況に関する研究
神田夏子、伊藤香織、丹羽由佳理

八女福島における町家を再生した新規店舗の参入
權田貴之、伊藤香織、丹羽由佳理

CSIS DAYS 2014 空間情報科学研究センター シンポジウム

非町名地名の分布と利用状況に関する分析への試み
竹中翔，伊藤香織，丹羽由佳理

水上バスを視点場とした景観分析：隅田川周辺の街並みと印象の関係性より
西山貴史、飯田遼平、栗田純吾、伊藤香織、丹羽由佳理

草谷悠介　TDW/ デジタルスタジオ

TDW の学生展示部門においてデジタルスタジオとして出展した作品が準グランプリを受賞しました。日本の伝統技術である木組みと光付けを現代的に解釈し、最新の 3D スキャナーと５軸レーザーカッターを用いて茶室を表現した点が高く評価されました。

Picnic Interview

2014.11.23(SUN) 14:00~16:00

GUEST ：曽我部 昌史　Sogabe Masashi

神奈川大学工学部建築学科教授、
みかんぐみ共同主宰

住宅、保育園、ライブハウスなどの建築設計から家具、プロダクト、インスタレーション、ワークショップの企画運営や評論の執筆、アートプロジェクトまで幅広くデザインを手がける。主な作品に、「北京建外SOHO低層商業棟」、「2005年日本国際博覧会　トヨタグループ館」、「EARTH MANUAL PROJECT展」。

ピクニックインタビューでは、毎年ゲストを招き一緒に食事を楽しみながら、くつろいだ雰囲気の中でお話を伺っています。
今回は、横浜の像の鼻パークに曽我部昌史さんをお招きしました。

建築家を志した経緯を教えて下さい。

小学生のとき、近所の同級生のお父さんが設計屋さんをやっていて、その子の家によく遊びに行ってたのよ。そしたらその子のお父さんが使っていた製図板、烏口や勾配定規などの製図道具がかっこ良く見えて。子供のとき道具フェチだったから、それが欲しくって。

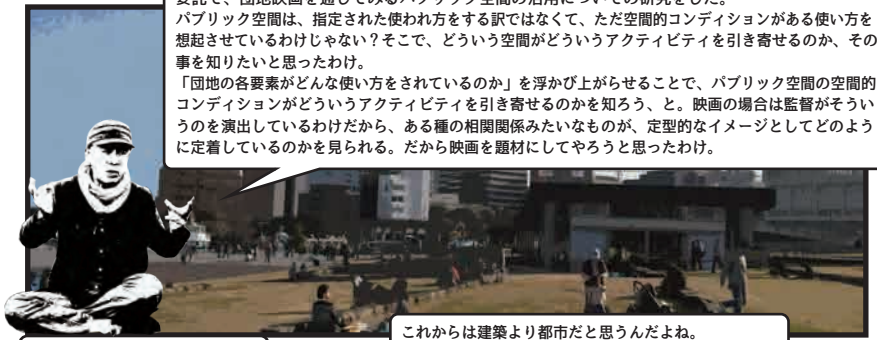
家に帰って、うちの親父に聞いたら「あれは設計技師だ」って言われて。
僕は、人と同じ職業を言うのが嫌いで、誰も設計技師なんて言わないから、将来何になりたいって聞かれると、設計技師って言っていた。
そうこうするうちに、いつのまにか建築の道を歩んでいた。

舞台設計もされていますが、建築設計との違いは？

舞台は時間の扱いが違うけれど、人々が体験する空間を設計するわけじゃない？観客と役者のような異なる立場の人たちがどのような体験をするのかを考えて、実現する方法を編み出していく点は建築設計と同じですね。
先日舞台美術として携わったミクニヤナイハラプロジェクトでは、演じられている世界観と、観ている観客の意識が毅然一体となるような状態をつくりたかったわけ。ステージは段々起伏になって少しずつ上がっていって、いつの間にか客席に一致しちゃうとか、会場一帯に落ち葉を敷き詰めようとか考えた。
それに対して舞台監督は、「滑って危ないね」「段差あるから転んじゃうんじゃないの」とか言いながらも、「段差や落ち葉がある事で実現される世界観が、空間を提示する側から出たのであれば、役者がそれに対応する方法を考えればいい」と。
建築設計のときは、ネガティブチェックが入る中で設計を進めていくので、いろんな可能性を失っている。舞台の人たちはこの小さな可能性を潰す事を一番恐れ、そういう可能性を殺すくらいだったら皆で頑張る、みたいな。
みかんぐみは、文句を言われたらそれを逆手に取って、何かを我慢する応え方じゃなくて新しいやり方を発明して応える、そこに喜びを感じよう！っていうのがポリシーですね。

団地映画を収集されているとのことですが、なぜ団地に注目するのですか。

1997~98 年頃暇でさ、ハウジングアンドコミュニティ財団の助成金を申請して団地の利活用研究をしたの。それを『団地再生計画』という書籍にまとめた。その後、2004 年頃に今度は住総研からの委託で、団地映画を通してみるパブリック空間の活用についての研究をした。
パブリック空間は、指定された使われ方をする訳ではなくて、ただ空間的コンディションがある使い方を想起させているわけじゃない？そこで、どういう空間がどういうアクティビティを引き寄せるのか、その事を知りたいと思ったわけ。
「団地の各要素がどんな使い方をされているのか」を浮かび上がらせることで、パブリック空間の空間的コンディションがどういうアクティビティを引き寄せるのかを知ろう、と。映画の場合は監督がそういうのを演出しているわけだから、ある種の相関関係みたいなものが、定型的なイメージとしてどのように定着しているのかを見られる。だから映画を題材にしてやろうと思ったわけ。



都市デザイン・都市計画の学生にメッセージをお願いします。

これからは建築より都市だと思うんだよね。
建築はリノベーションブームでしょ。結局新しい何かをつくる時代ではもう無いから、今あるものをどのように使っていくかっていうことだと思うんだよね。

建築はリノベーションっていう形で出てくるんだけど、我々の生活を取り巻いている環境の中で、既存のものを扱うことを考えたら、一番は都市そのものだよね。だからこの都市そのものをどんなふうに扱っていけるかっていうことを、君たちも、我々も、考えなきゃいけないじゃない？

そのときに、いかに自由、正直になれるかということが大事だと思うんだよね。
建築の設計でもそうなんだけど、知ってしまっているが故に自分の発想を制約してしまっている。一番の敵は自分なんだよ、きっと。
少なくとも、一番の敵である自分には打ち勝てるような意識を、僕もそのように頑張ろうと思っているので、皆にも思ってもらえるといいかなと思います。

Theses&Design

2013 年度（通年）卒業論文

八女福島における店舗の新規参入
-町家再生を伴う事例-
木村佐紀　權田貴之　中村有花

水上バスからの景観分析
-隅田川周辺の街並みと印象-
飯田遼平　栗田純吾　西山貴史

2014 年度（半期）卒業論文

神楽坂地区における街路通行者の行動分析
園部伊世　土谷知世　早川貴光

公園の形状と内からの景観
－大田区の街区公園を対象として－
栗田恵　鈴木俊　鈴木宗一郎

子育てひろばにおける利用者の行動特性
－子育てひろば汐見を事例として－
酒井祥樹　宋歆月　柳原仁

2013 年度　修士論文

大学周辺における学生の立ち寄り行動の複合要因　－立地の違いによる３キャンパスの比較－
荒井隆太郎

商業集積地における屋外広告物の空間分析
池田俊介

スイス・アッペンツェル地方における建築デザイン規制　～建築法と建築委員会の役割～
後藤洋子

まちづくりに関わる認定NPO法人の活動と組織
萩原豪

2013 年度　卒業設計

時空の横断／国立戦争博物館　千葉県建築学生賞奨励賞
小田健人

雨の図書館
笠原遼太

地域交流の創造と活動の発信：原宿カルチャーセンター計画
風間仁嗣

空白からの享受
草谷悠介

間のその先
神田夏子

引き出す都市/引き込む建築
宮本沙生

2013 年度　修士設計

建築エレメントの分解　-屋根による広場的環境の創出
上原慧史

建築の極大　-同時多様的なまなざし
藤井田仁

空気の翻訳　修士設計最優秀賞
星洸祐

環境の単位　-ニュータウンにおける2次的環境の再定義
堀口裕

時空の横断／国立戦争博物館　小田健人

空気の翻訳　星浩祐

Two Asian cities

ここでは、海外でのプロジェクトに取り組む伊藤研究室OGと
伊藤研究室在学中の留学生が、自分の関係する都市を紹介します。

城間さわ　Shiroma Sawa

2010 年に東京理科大学大学院理工学研究科
建築学専攻修士課程（伊藤研究室）を修了。
建設コンサルタントに勤務。

皆さん、こんにちは。伊藤研３期の城間です。
私は建設コンサルタント会社に勤務しており、昨年の５月からモンゴル国ウランバートル市で仕事をしています。皆さんのイメージするモンゴルは「草原・遊牧民・ゲル」というものかもしれませんが、国の人口（約300万人）の1/3（約130万人）が暮らす首都ウランバートルは、旧ソ連の影響を強く受けた町並みが広がった大都会です。
和食屋やラーメン屋が何軒もあり、食生活も不自由することはありません。
近年は、富裕層や外国人向けの高級アパートメントの建設が進んでいるほか、市郊外には元遊牧民が住み着いたゲル地区が広がり、都市の無秩序な拡大が進んでいます。
市中心部では地域暖房システムを採用し、厳しい冬（12月某日の今朝の気温は－19℃）でも室内は半袖で過ごせるほど暖かいのですが、無秩序に広がったゲル地区には、そのシステムが行き届いていません。
そのため、ゲル地区では石炭ストーブを使用し、その石炭の煙が市内の大気汚染の原因となり、環境問題を引き起こしてるようです。そんな空気の悪い市内から抜け出し、市近郊にあるホグド山国立公園の雪山でのハイキングが寒い冬ならではの楽しみの一つになっています。雪山には樹氷やダイヤモンドダストなど街中ではめったに見れない光景が広がっており、寒さに震えながらも登る価値があります。
モンゴルに興味をもたれた方は、７月のモンゴル最大のお祭り・ナーダムの時期に合わせていらっしゃることをお勧めします。
雄大な自然だけではなく、相撲や競馬といった、伝統的な文化にも触れることができる良い機会になると思います。

宋歆月　Song Xinyue

伊藤研究室４年生。中国の蘇州出身。
2009 年 1 月に来日し、2011 年 4 月から東京理科大学理工学部建築学科で建築を学ぶ。

皆さん、こんにちは。伊藤研究室 B４の宋です。私は中国の蘇州出身です。
日本では蘇州をご存知の方は少ないかもしれませんが、蘇州は歴史都市として多くの外国人観光客を集めています。
蘇州は上海に隣接し、紀元前に遡る古い歴史を持つ町です。昔から運河を始めとする水上交通をよく利用してきて、水路が市民の日常生活に溶け込んでいるため、「東洋のベニス」ともいわれます。現在の蘇州は、長い歴史と現代都市の息吹が混ざりあった不思議な魅力を持っています。
蘇州に興味をもたれた方は、蘇州の古典庭園と平江路にいらっしゃることをお勧めします。
蘇州の古典庭園は蘇州の有名な観光地で、中国文化を色濃く残す中国庭園の代表として世界遺産に登録されています。半分建築景観、半分自然景観となっている庭園の多くは地元の名士により作られたものです。中央に池を配し、水路を張り巡らして湖沼・河川とし、周囲には小高い丘を山に見立て、岩々で峰を、木々で森や林を表現しました。私は幼い頃はよく古典庭園へ遊びに行きましたが、観光客が増えてからはあまり行っていません。
最近よく遊びに行くのが平江路（Pingjiang Road）です。近年、蘇州では急激な都市化に伴い、蘇州らしい風景を残すところが少なくなりました。昔の運河の様子が残っている平江路は観光地として人気があり、お土産屋、カフェなどもできています。美しい石畳の小路で散歩をしながら歴史ある建築物を見ると、繁華街とは一味違った蘇州を味わうことができると思います。

Alumni voices

伊藤研究室で都市計画・都市デザインを学び現在、幅広い分野で活躍されている卒業生に現在のお仕事に就いた経緯、またどのような事を考え活動をされているかを伺いました。

0. 現在の所属・肩書
1. 現在のお仕事に就くまでの経緯
2. 現在どのようなお仕事をされているか
3. 今後の目標

中谷 将　Nakaya Masaru

伊藤研究室３期生　2010年修士課程修了

0.宮城県沿岸にある女川町役場で働いています。復興推進課都市計画係に所属しており、「復興支援専門員」という肩書です。いち役場職員として勤務していますが、復興庁から派遣された、任期付きの国家公務員です。

1. 私は青年海外協力隊ＯＢとして採用されています。これは復興庁と JOCA（JICA の外郭団体）が組んで始めた採用枠で、私はその第一陣として女川に来ました。協力隊員としては北アフリカのモロッコに2011年1月から2年間赴任していました。村落開発普及員（現在はコミュニティ開発に改称）として、小さな漁村で漁業組合の運営支援や事業開拓支援に取り組みました。応募時はもう少しまちづくりっぽい要請に応募していましたがJICAがどういう適性を見たのか、漁村に行けと。現地ではPCの事務への活用や、魚の燻製を作っていました。そして、任期終了後、前述の制度が始まるということで震災の時既にモロッコにおり被災地を自分の目で見られる機会と思って応募し、帰国の2ヶ月後の3月から赴任しました。

2.東日本大震災による津波で、町の大部分が被災した女川の復興まちづくりにおいて、計画分野の関係機関との協議や庁内調整等を行っています。具体的には被災した鉄道の復旧や震災遺構保存、区画整理事業に関する調整を担当しています。私は大学院を修了して、就職せずに協力隊へ行っているので、実質ここが初めての仕事ですが、専門的な部分はサポートしてもらいながら仕事をしています。

3.女川での仕事は2015年3月までの任期です。次の仕事は未定ですが、地元の長野県に 帰って、地域に根づいた生き方をしていきたいなと思っています。元々地元が好きですが、遠く離れてみて、故郷のために働く・活動することに魅力を感じています。仕事にできれば最高ですが、生まれ故郷で生きてその魅力を多くの人と共有できたらいいなあと思います。

仲村 明代　Nakamura Akiyo

伊藤研究室2期生　2009年修士課程修了

0. 建築系雑誌・編集

1. 大学院時代、伊藤研究室では「東京のイメージ」が研究テーマでした。意識の中にあるイメージが具体的な都市空間にどのように顕在するのか、そしてそれは他者とどのように共有されていくのかに関心がありました。修士を修了後も、地元である福岡の大学の博士課程で研究を続けていましたが、一度じぶんの考えや視点をものすごく遠くから見てみる必要があるのではと思い、大学院を離れました。今までの見方を 180 度変えるような場を探していたところ、偶然にも現在所属している出版会社の求人募集を見つけ、編集の仕事に就いたのが１年前のことになります。
ものすごく遠くから、とは言え、建築という分野からは離れられなかったのは、研究テーマへの関心は常に持ち続けていたかったからです。

2. 主に国内外向けの３シリーズおよび単行本の編集を担当していますが、仕事の内容はとても流動的です。掲載する住宅および建築についての下調べ、建築家をはじめとする関係者とのやりとり、必要な情報や具体的なデータの手配、編集作業、印刷所との校正のやりとりを経て一冊を仕上げるまでが仕事になります。その間はほぼデスクワークでパソコンや電話にかじりついていますが、仕事が一段落する時期には、他シリーズの撮影・取材へ同行したりオープンハウスや記者会見など情報収集に出かけたりもします。また編集の仕事だけでなく、併設のギャラリーでの展覧会についても、一貫して関わることができ、時には店頭に立ちチケットをもぎったりもしています。

3. ふりかえるとこの１年は、編集という仕事の基礎の基礎を身につけるための時間だったように思います。それは単にコンテンツの編集に限らず、本が企画され、編集・校正を経て読者の手に渡るまでの一連の流れ、本というメディアのいろはにいたるまでを繰り返したたきこむような毎日でした。今後は「建築をどう伝えるか」に、私という人間の色が出せるような編集者を目指したいです。